

五月の法話抄録

「慚愧」

釈尼花伝 担当

五月のゴールデンウィークは皆様は如何おすごでしたか。当方は親子三代で寸暇一緒に楽しめるものとして映画館に行き、「ピーターパン」を観る縁に偶いました。

ウォルトディズニー製作で、おおよその登場人物やストーリーは、皆様もよくご存知だと思えますが、イラストを参照していただき、思い出したり、見当ついたりして下さいね。(今回はアニメではなく俳優さんでした)

私なりの感想をもとに話させていただけます。この作品は、大別すると仏教ではないので外道になるにもかかわらず、非常に仏道の一連の有様に酷似しているのです、もの凄く驚いてしまったことです。

はじめの場面では眠っている子ども達のベッドの窓辺に妖精のティンカーベルと主人公のピーターパンがやってきて、ネバーランドに行くことを誘い、姉弟の三人が、「信じて」空を飛んでついでゆくわけです。

仏教でいえば、「出世間」の状態です。親ともいつの間にか離れて、「あこがれ」と共に向かうわけです。「出世間」の精神的飛行はまさに美しく、楽

しく輝いて素晴らしいのですが、目的地のネバーランドに着いてみて、「浄土」に似ているので驚いてしまいましたよ。それはそれはネバーランドというくらいですから、私はすっかり問題のない楽しいところかなと思っていたら、実はそうではない。思いきり「楽」ばかりできるのかと思ったら、大まちがい。生きながらにして到達出来たところ、待ちに待っているのは、黄金のひかりと本願に報酬された仏智不思議の功德と共に自分自身のかつての行いの「業因縁」なのです。

ピーターパンにとつてその対象なるものは「フック」であり、仏陀にとつても、聖徳太子にとつても、親鸞聖人にとつても、業因縁の対象が完全に消えることを目指しながらも、あらわれては目の前に一瞬立ちただかるのです。

これは完全に消えていない煩惱が出てくることなのですが、出世間しても、出偶うことは事実です。生きている以上は仏陀と同じです。煩惱を消すのに剣は使うことなく、「真実の法」で忍耐し勝つてゆくのです。(大般涅槃經参照)

映画の次の場面では、ここで退転す



るか「フック」に命をねらわれ、あまりの苦しさからか、「ティンカーベルなにか、どうでもいいや」と思ってしまった瞬間に、空を飛べていた「ピーターパン」は地に墜ちてしまつたのです。仏教でいえば、「敗壞の菩薩」です。そして瀕死の状態まで行きます。

私はここで「ティンカーベル」を仏教に置き換えるのなら「仏智不思議」だと思えるのです。その「仏智不思議」をどうでもいいと思つたり忘れたりすると、その境地より下へ退信してしまつたのです。精神的に菩提心を失い、もう死んでしまつたかと思えたところでその大切さを思い返して回復してゆくのです。もう一度目を開くと

ころは、また、実に感動的でした。粗末にし、恩を忘れていたことを申し訳なく深く涙するのです。

そしてさらには、自分の、対象であった「フック」を滅ぼし、ネバーランドの「フック」に囲われていた、その他の子ども達をも連れて、地上の一般の家庭に戻つてくるのです。

そのつぎに、私の心が勇躍したのは、世界中の家族全員が、窓辺から天空に向かつて、「ティンカーベルを信じる」の大合唱したことです。私は「阿弥陀

如来の本願を信じる!」、「仏智不思議を信じる!」と称えているように重なつて思えました。また素晴らしいのが、その一人一人の黄金に照らされた横顔の輝く表情に感動しました。

つくづく、全世界の人間が、このように声を出して念佛出来たら、武器や兵力もいらさない、それはそれは素晴らしい黄金の笑みに満ちた大陸になつてゆくでしょう。

そしてまた、すっかり感心してしまつたのが、そのような中、ごくまあ普通でごく一般の悩みを抱えた家庭に突然、連れてきた十人位の子ども達を、家の主人がはじめは怪訝そうに、「よその子をとてもうちでは面倒は見られないし育てる程うちには金はない、育てられない」等といったのが、「ネバーランドを信じる!」を想起したのでしよう。すると、「ま、なんとかなるか、いいだろう! 家の子にならなさい!」と、一転して変わってしまったことです。

もう菩薩の大慈・大悲の境地でしょう。そして願わくば、「仏智不思議を信じる!」、「阿弥陀如来の本願を信じる!」これらの称名を聞いて世界中の人間が慚愧というおおいなる喜びの涙に、ひたりながら大信海にはいついて欲しいと思います。

南無阿弥陀佛

合掌